



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
インターネットでも
ご覧いただけます。

<http://www.jcp-ktib.com/>

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

磯原駅の待合室 「中部サービスセンター」 が朝6時から利用可能に

市民の声を党市議団がつなぐ



市民待合室 ご利用時間
6:00AM~6:00PM
TEL 30-7712

磯原駅の待合室
(中部市民サービスセンター)

磯原駅の早朝電車を利用する年配の方から「特に冬場は、磯原駅の2階で電車の時間を待っているときに、通路から風が吹き抜けてきて、たまつたものではない。駅に隣接する市の中部市民サービスセンターの待合室を何とか利用できるようにしてほしい」との声が福田市議に寄せられました。福田市議は昨年12月の建設委員会の中でさつそく取り上げて「ぜひともサービス

センター待合室の開く時間を早朝からに改善して、市民の要望に応えるべきである」と求めました。その結果、それまで朝8時〜夜6時までのサービス

センターの開設時間が、昨年12月25日からは朝6時〜夜6時まで改善されました。同センターの待合室で早朝の特急列車を待っていた市民の方は「寒風から身を守れて良かったです」と笑顔で応えていました。日本共産党市議団は今後とも市民の身近な要求実現のために力をつくします。

男女共同参画
推進事業

女と男 ひとひと ステップアップ公開講座

1月14日、市民ふれあいセンターにおいて『女と男 ひとひと いきいきステップアップ公開講座』が開かれました。参加者は約200人。劇あり、歌あり、お話ありの盛りだくさんでした。

北茨城高校の演劇部員による「女性が支えた会社」大森社長とゆかいな仲間た



北茨城高校演劇部の熱演

北茨城高校の演劇部員による「女性が支えた会社」大森社長とゆかいな仲間たち。町出身のミュージシャン・大塚利恵さんとの対談です。大塚さんは、オープンングとエンディングで素敵な演奏を聞かせてくれました。親子ほどの年齢差にどんな対談になるかたいへん興味深いと長谷川先生。事前の質問に沿いながらも、ゆつたりと答える利恵さん。男

女の差別は、働いている音楽業界では感じたことがないとキツパリ。結婚・出産を控えると別の面が見えるのでは、との長谷川先生の指摘には、会場からも共感の声がもれました。

何が大切かと問われて「一番

は音楽の仕事、子育て、結婚の順番。自分らしく生きることは、20歳の頃はがむしゃらに生きることだった。でも今は、たくさんのひとの関わりで生きていて、そのネットワークが大事。そこを大切にしてこそ自分らしく生きられる」。

「我がまま」という言葉をめぐって、そのアクセントの置き方で、「まわりに生かされていることを自覚して我(われ)の思うままに生きる」と、他を無視して我(が)を通して生きること」とは違うというところが話されました。

どんな社会を望むかと問われて「想像力が生かされる社会」と答えて「あらゆる情報量の中に埋没した



長谷川幸介先生と大塚利恵さん

り流されるのではなく、自分が心地よいと思えるものをぜひ探って選んで欲しい」と利恵さん。長谷川先生は、「全部お金に置き換えられるかのように錯覚しているけれど、かけがえのない自分、かけがえのないあなたに気づいて発見すること、そうしてぜひ自分らしく生きることを模索して欲しい」と締めくくりました。

*

会場は、高萩共同作業所「ほつと工房MIND」で育てられたたきさんの花で飾られました。同工房では、心の病を抱えた方が、病氣と向き合いながら社会復帰をめざして作業訓練をしています。閉会后、花は参加者に抽選で配られました。